

Hameran Cream の外痔核に対する効果

三枝肛門科

三 枝 純 郎

〔原稿受付 昭和39年3月6日〕

Topical Administration of Hameran Cream
for External Haemorrhoid

by

SUMIO SAIGUSA

On the treatment of thrombus non exposed type external haemorrhoid, especially on its early stage, accompanying oedematous swelling, good result was obtained due to the topical administration of Hameran Cream, keeping the principle of conservative treatment for it.

元來外痔核の保存療法の要諦は食餌～下剤投与による糞便の軟化を計り、これにより排便を易化せしめ、排便時の怒噴を最少限に留めしめ、加えて排便時間の可及的短縮を計るにある。又同時に肛門に圧迫の加わる体位をできうる限り回避せしめ（特に蹲踞位、中腰位、坐位は全く好ましくなく、排便時以外の蹲踞位～坐位は禁止せらるべきである）肛門高位の臥床安静を保持せしむべきものである。加えて局所への種々の治療即ち湿布～消炎剤軟膏の塗布もその症状を軽減せしむるのに役立つものである。

著者は今回血栓性静脈炎に対して著効を示すといわれているHameran Creamを、肛門疾患の中での代表的な静脈炎性疾患と考えられている外痔核に試用する機会をえたのでここに報告する。

実 施 方 法

外来患者の中で外痔核を主病変とする症例をえらび、その中で当初根治手術を好まない、必要としない症例29例に対して上記の治療方針の下に局所に本剤を1日2回比較的多量に貼用せしめた。

成 績 判 定 法

その成績判定は大体以下の方法によつた。
即ち在来著者は外痔核に対する局所消炎塗布剤とし

てイヒチオール軟膏（イヒチオールを硝酸軟膏に溶いたもの）を使用している関係上、Hameran Creamが本剤と殆ど同様の程度の効果を示せる場合を効果(+)とし、Hameran Creamが本剤より以上の効果を示せる場合を効果(++)とし、Hameran Creamが殊に勝れた効果を示せる場合を効果(+++)とした。一方在来局所消炎布剤の貼用の余り効果のない型の外痔核、即ち血栓露出型外痔核—著者はこの種の外痔核に対しては好んで直ちに根治手術を実施するを常としている—に対しても保存的療法をHameran Creamの貼用と同時にこなつたが、この際殆ど効果の認められなかつたものは効果(-)と判定することにした。

成 績

別表参照

便宜上、血栓非露出型外痔核と血栓露出型外痔核に大別して記載することとする。

成 績 判 定

以上の成績を判定するに以下のことが明らかとなつた。

1) 血栓非露出型外痔核にあつては上記の保存療法と併用せる際のHameran Creamの効果は一般に好ましいものであり、殊に発病切期の浮腫傾向の強い症例に

てはより満足な成果がえられた。

2) 血栓露出型外痔核にあつては、元来この種の外痔核は単に保存療法のみによつて、血栓非露出型外痔核におけるが如く簡単に軽快するものではなく、根治手術を実施するか又は少なくとも露出血栓塊を充分に除去し、その根部の満足な結紮を必要とするものであるので、上記の単純な保存療法とHameran Creamの貼用のみによつては満足な成果はえられない。

結 論

血栓非露出型外痔核、殊に発病初期の浮腫傾向の強いものにあつては、上記の原則的な外痔核保存療法の満足な実施と局所へのHameran Creamの貼用により、一般により満足な治療効果がえられる。なお副作用については殆どその確実なるものを認めなかつた。

(補)

なお外痔核に対するHameran Creamの効果は単に本剤の局所への貼用により求むべきものではなく、その実施に先行すべき上記の原則的な外痔核保存療法の満足な実施があることを敢て付言しておく。又たとえ血栓非露出型外痔核であつても病変がある程度以上に及

ぶ時には保存療法によるよりも根治手術によるべきであることも又当然の理である。

成 績 表

血栓非露出型外痔核 21例	
5 例	効果 (卅)
10 例	効果 (卅)
6 例	効果 (+)

効果(卅)を示せる症例5例の中で、4例は発病後24時間以内のものであつた。

血栓露出型外痔核 8例	
6 例	効果 (-)
1 例	効果 (+)
1 例	効果 (?)

効果(-)を示せる症例6例は全例2～3日に亘るの貼用の効果のなかつたものである。効果(?)の一例は当初は軽快せるも3日後に再び血栓増大増悪せるものである。